

## 同好会便り

### サッカー同好会

2011年度サッカー同好会は最低限の目標であった予選リーグ突破を果たしたシーズンでありました。今年は日程調整や人員不足が原因で事前の準備もままならず、ぶっつけ本番の状態です。恵庭の地で行われた予選リーグに参戦しました。当日は、同好会メンバーの集まりが悪く、急遽OBの皆様をはじめ現役メンバーから助っ人をお借りし本番に挑みました。登別室蘭、小樽、恵庭などの強豪チームとの組み合わせでしたが、1勝1分け1敗の3位という成績で予選突破を果たしました。中でも2戦目の小樽戦は助っ人組(乾監事、中原委員長)の大活躍でみごと勝利をもぎ取る事が出来ました。残念ながら網走の地で行われた決勝トーナメントには日程の都合上参加することが出来ませんでした。実りのある同好会活動が出来たシーズンでありました。2012年度においては、十分な練習を積み、苦小牧の伝統を汚すことのないよう、優勝を目指し年間活動して参ります。また季節的に青空の下行われるスポーツであります。是非、奥様、お子様を連れ添ってご参加頂き、家族愛も育んで頂ければ、サッカー同好会一同大変嬉しく思う所です。最後に参りますが、OB諸兄をはじめ現役メンバーの熱いご支援、ご協力本当にありがとうございました。

主将 佐藤 瑞輝

## 入会のお誘い

社団法人苦小牧青年会議所は来年度で認証60年を迎えることとなります。今日まで築いて来た様々な歴史をもって、地域に求められる青年団体として今まで以上に切磋琢磨し、持続可能な団体として活動していく為には、これまで以上に会員の増強が必要です。青年会議所の素晴らしさや有効性を今まで以上に認識すると共に、しっかりと運動展開をしてまいります。関係各位におかれましては些細なことでもかまいません、情報・紹介など頂ける事をお願い申し上げます。

## 同好会便り

### ボウリング会議所

本年度、ボウリング会議所は建部会長の下、月一回、現役・OB入り交じり、毎例会15名前後の楽しいボウリングを開催しています。中止も考えた3月例会は、東北震災チャリティ大会として、多くのストライク、瀬野先輩の募金のための故意的なガターなど、多大なご協力で36,000円を集めることができ、LOMの募金に加えて頂きました。11月現在、年間1位の青木先輩が最後まで逃げ切るのか、まだ勝負はついておりません。12月13日の最終例会はフェスティバルと称し、お酒を用意して皆さんをお待ちしております。ボウリングは初心者からプロに至るまで、誰もが同じレーンで仲良く楽しめる競技です。終了後には楽しい懇親会もあるので、気軽に参加してみませんか。

幹事長 笹嶋 隆廣

### アイスホッケー同好会

本年度は、3月11日に発生した大震災の影響で八戸JC並びに札幌JCとの交流戦の開催が危ぶまれる状況となりました。札幌JCとの交流戦においては、伝統ある交流戦を途絶えさせたくないと云う両LOMの想いと、被災地である八戸JCからの「自粛するばかりではなく、こんな時だからこそ活動できる地域ではJCが先頭に立って地域を盛り上げてほしい」と云う言葉が後押しとなり、15周年と云う節目の交流戦を開催する事が出来ました。八戸JCとの交流戦については、復興支援の意味も込め、10月にジャがいもクラブと合同での交流戦を予定しておりましたが、諸般の事情により止む無く中止となりました。ご協力頂いた皆様方に感謝申し上げますと共に来年度への更なるご協力を宜しくお願い申し上げます。

Aチーム主将 星野 岳夫

### ジャがいもクラブ

本年度、苦小牧青年会議所ジャがいもクラブは、渡邊健治会長の下、4回の例会と八戸JCとの交流会を開催し、第4回例会の開始前の大雨が開始時刻には雨も止むなど、天候にも恵まれるシーズンとなり、福士雄二先輩の年間優勝で幕を閉じました。また、八戸CCで行われた八戸JCとの交流会では、猪股OB会長にも懇親会にお越し頂き、東北震災の復興のためにOB会からお渡しした基金で行われた活動の報告を受けるなど、例年にも増した深い交流ができたことと考えております。ゴルフはするけどジャがいもに入っていないメンバーも多いようですが、現役メンバーとOBの皆様との交流の場としても最適なジャがいもクラブに来年こそは参加してみませんか。

幹事長 笹嶋 隆廣

## 理事長予定者挨拶

第60代理事長予定者  
吉本 一憲



### 2012年度に向けて

2012年度一般社団法人苦小牧青年会議所第60代理事長という大役を仰せつかりました吉本一憲です。私は、2004年度の入会以来、数多くの先輩諸氏や共に活動しているメンバーに出会い様々な活動を通して多くのことを学び、経験をさせていただいた中でも、特に人の「和」の大切さを学ばせていただきました。今年3月に発生した東日本大震災では多くの尊い命が奪われ、今なお避難所生活を余儀なくされている被災者がいる現実があります。そんな状況の中でも人と人との「和」が復興に向けての希望の光になっていることと思います。この「和」の精神は、妥協やなれあいを表すものでなく、お互いがお互いの価値観を認め合う相互理解の精神であり「思いやり」「調和する」精神であり「人々が調和すれば、どんなことでも成し遂げられる」という理念であると思います。メンバー一人ひとりの責任ある行動が「ひと」と「ひと」との信頼感を築き、調和をもった繋がりがひとつの大きな力となれば、現在の混沌とした社会を変えられるはずで、私は次年度理事長として「和」の精神をメンバーに伝え、それを地域の皆様に伝播し、「和の心を持った人による明るい地域づくりの実現」に向けて、揺るぎない志とリーダーシップを兼ね備えた行動力で1年間精一杯活動してまいります。最後になりますが、先輩諸氏の皆様には、これまで以上の御指導、御鞭撻を頂きますよう切にお願い申し上げます。次年度に向けてのご挨拶とさせていただきます。

## 地区会長挨拶

公益社団法人日本青年会議所  
北海道地区協議会第60代会長  
高橋 憲司



### 一年を振り返って

北海道地区協議会会長職を拝命してより一年半、年初より掲げた「進取の気性と相互扶助の精神」を重んじ運動の推進に当たりました。特に本年は、3.11の東日本大震災の影響を受け実施できなかった事業もありましたが、震災支援に当たり日本人の力強さや道内JCメンバーの行動力と結束力を随所に確認できる一年でありました。

北海道は、将来的に自然や観光など優位性をもつ分野で、日本のみならずアジア全体に大きな意味をもつ「アジアの宝」に成長すると期待されています。経済のグローバル化が急激に進展している今、北海道に住む人々、北海道を愛する人々が、改めて北海道のもつ優位性や潜在力などを見つめ直し、世界に通用するものとして、その価値を高め、広げていくことが急務です。

JCの可能性は無限大であり、最高の学舎であると考えます。自分や社会と向き合うことで多くの事に気づかせてくれる団体です。大きな志をもって魅力あるJC運動を作り上げてください。今後の苦小牧青年会議所の更なる飛躍を期待しております。

結びに、私を出向させてくれた藤田理事長、事業運営にあたり共に汗を流してくれたメンバー全員に心より感謝を申し上げます。また、事業遂行にあたりご支援ご協力を賜りました先輩諸氏に併せて厚くお礼を申し上げます。一年間誠にありがとうございました。

# はすかつぷ

Vol.3

2011年12月6日発行  
発行所  
社団法人 苦小牧青年会議所  
苦小牧市表町1丁目1番13号  
TEL 0144-34-3627 FAX 0144-32-9762  
HP <http://toma-jc.jp/> Mail [info@toma-jc.jp](mailto:info@toma-jc.jp)



## 理事長挨拶

平成23年度 第59代理事長

藤田 健次郎



## 1年を振り返って

長期の景気低迷や東日本大震災の悪影響、そして世界情勢の大変化は、日本にも大きな転換を迫っています。しかし、国を支えるべき地域は疲弊し、力を失っています。私達のふるさと苦小牧も、例外ではありません。そして課題山積だからこそ、地域に根差す青年会議所の真価が改めて問われています。

この地域には、歴史風土より紡がれた再生の原動力たる地域の宝が、未だ潜在しています。歴史遺産や自然の恵み、文化や技術、住まう人々とその繋がりが、そこから生じる発想こそがその宝です。私達の使命は、地域の永続的繁栄に向け、この宝を顕在化させ、新たな感性と技術で磨き育み続ける事です。

本年はこの使命を念頭に、自らの限界を突破し、自利利他の志で活動を行うことを方針としました。そして地域を愛し、その未来を真剣に考え行動し、想いを市民の皆様へ伝播して参りました。これらの活動成果は本年で完結するものではなく、今後も更に熟成すべきものです。自らの地域は自らで創り、創り上げたその価値を変えない為に、私たちの活動は熟成の中でまた変化してゆきます。JCは時代の変遷を経ても、色褪せないことを実感致しました。

市民の皆様、多くの先輩諸氏、メンバー各位とご家族、たくさんの皆様より叱咤激励とご指導、ご鞭撻を賜りましたこと、心より感謝と御礼を申し上げます。一年間本当にありがとうございました。

## 後期活動報告

### 地域創造委員会

2月第一例会では、まちづくりは最小の地域コミュニティから始まると考え、町内会へJaycee個人として参加を促す例会を行いました。例会後、メンバーが町内会役員になるなど、一定の成果を得ることが出来ました。さらに、市民の皆様にも町内会の重要性に気付いて頂くために、広報とまこまいと共に、広報ピラを配布した町内会加入促進事業を行いました。また、7月第一例会では、まちづくりを行う市民が増えた時、それを受け入れる側の体勢が整うために、苦小牧市議会にスポットを当て「市民と議会が近づくために」と題して、岩倉博文先輩、田村雄二先輩、木村司先輩をお招きしてパネルディスカッションを行いました。そして、議題に挙がった議会報告会を11月23日の室事業にて開催いたしました。

### まちづくり室事業

自利利他の繋がりを大事にし、町内会連合会や近隣地域の商工会青年部と繋がり、各団体から協力を得て、事業を行うことが出来ました。また、11月23日に市民180名をお招きし「みんなで語ろうとまこまいの未来」と題し、室事業を開催しました。前半は苦小牧市議会報告会、後半はワールド・カフェを開催し、市民の皆様から多くの意見をいただくことができ、まちづくりは、一人ひとりが考える重要性を発信いたしました。

### 事業室・交流室事業

今年度文化振興事業委員会と交流委員会による室事業として、苦小牧の文化である樽前山神社例大祭に地域活性と文化振興、会員交流を目的に参画致しました。単年度という継続的リスクが懸念されましたがこれをきっかけにJAYCEEとして地域活性に携わる人材が育つ事により継続的活動に繋がると考えました。主催側からも今後の街の活性は若手の活動意欲にかかっており、今後も期待したいとの評価を受けております。今後も街の活性化の為にJAYCEEとして継続的発信を致します。

## 後期活動報告

### 文化振興事業委員会

樽前山神社例大祭参画におきまして、3日間共に生憎のお天気でしたが、初日と最終日の御興担ぎにおいて、盛大かつ威勢の良い掛け声を響かせながら、町の活性と市民の安全祈願を願い、街中や境内を練り歩きました。とまこまい港まつり参画について、運営3日間を通じて、天候にも恵まれ、例年に勝るとも劣らない来場者を記録し、来場者一人ひとりに多くの感動と喜びを与える事が出来ました。また、各所で親子の触れ合いや助け合いが見られ、来場者の面白いや楽しいという言葉が物語る通り、地域や市民に求められる苦小牧青年会議所の姿を、まさにこの事業を通じて再現する事が出来た証であると同時に、メンバーが一丸となって発揮した力がもたらした誇れる結果であると感じました。

### 商業振興委員会

我々商業振興委員会は、本年度前期に行ったワールド・カフェによる意見集約の元、後期には広域連携による地元商業の活性化と近隣地域観光振興を目的として東胆振地域のご当地カレーを題材とした「カレービンゴラリー」を開催致しました。参加者の方々からは、新しいお店、メニューの発見など高評価をいただきました。また、8月例会では更に枠を広げ、胆振日高地域全体の商業、観光振興の可能性を探る例会を開催致しました。胆振日高地域をコンパネ26枚に描いた巨大地図を作成し、行政、商工会青年部、各青年会議所の方々を交え、様々な意見交換を行いました。このような機会はなかなか無いのでぜひとも継続していきたいと、参加者から熱い貴重なご意見を多数いただきました。

### 交流委員会

我々は、活動の糧である「人と人の繋がり」を強固にするため活動しています。「人」という漢字が物語るように、支え合う事で「人」となり生きていくことが出来るのです。その支え合いを生むために交流委員会の存在があります。本年度、アワード例会を担当させていただきました。役割は違えど、同じ意識と目標に向かい、苦労や達成感、楽しさや喜び、それぞれを仲間と分かち合い、そして支え合いながら、全力で限界突破を目指し走り続ける仲間達を称え、今後も続く青年会議所活動への活力と更なる交流の下地創りを行いました。12月の卒業式も各メンバーに、一生付き合う事の出来る「仲間」を生む運営を行います。

## 後期活動報告

### アカデミー塾

後期塾生はOB交流会にて入会してからの前半3ヶ月間、基本スケジュールはもとより樽前神社例大祭、港まつり、地区大会伊達大会ブース出展、たるまえサンフェスティバル等の事業に全員で参加をし、その間に塾会議、講師セミナー、塾生のみで行う会議を行いました。しかし、後期塾生はそんな強行スケジュールにもへこたれずに毎回笑顔で参加をしてきました。その集大成として例会では好きトマを深く掘り下げ初代理事長と関わりの深いカーリングをメンバー全員で行い、塾生の調査、研究、実践として、好きトマ鍋を手法としB級グルメの可能性の調査を市内で行ないました。好きトマ精神を言葉だけでなく、肌で感じた塾生は今後、JAYCEEとして邁進する事と期待しております。一年間を通し、塾長として感じてきた事は自らが三歩前を突き進むことで引きずられながらも必ず全員で先に進めるという事、その先の輝きに必ず手が届くことを塾生から学ばせて頂きました。最後になります様々な場面で塾生に対し御指導いただいた先輩諸氏の皆様に御礼申し上げます。一年間ありがとうございました。

### 人間力育成委員会

9月の第一例会では、他人から信頼される為には個々のスキルの向上と共に言動等の影響力、更には有言実行という実績が他人を安心させ納得させる重要な能力であることに気づいていただく例会を企画し、講師に岩村先輩をお招きしました。信頼出来るリーダー・影響力を持つリーダーとはなど、メンバーには高い目標を設定してもらい、今後の活動の糧になる気づきを再認識して頂きました。

### 育成室事業

去る11月5日(土)に本年ラムサール条約20周年を迎えるウトナイ湖をベースにウォークラリーを開催し、メンバー及び家族を対象として行い、70名を超える方々に参加を頂きました。約2kmの距離を1時間半かけて歩きながら自然のあり方や自然を実際に体感することで郷土への愛情を育てるとともに、自然保護の在り方や難しさを学ぶことで環境保護につなげ、好きトマを掲げている我々メンバーが率先して地元の自然や環境保護を学び次世代につなげることが出来た事業であったと思います。

## 後期活動報告

### 長期計画推進会議

本年度当会議では①新法人制度改革への対応、②会員拡大活動の推進、③苦小牧地区での各種大会等の誘致・検討を柱に活動してまいりました。新法人制度改革への対応については、先の総会で一般社団法人への申請を審議し、順調に事務手続きを進めている所です。会員拡大活動の推進については、先輩の皆様、現役会員に本趣旨の理解をしっかりと賜り、過分なご協力を頂きましてはほぼ順調に進んでいます。③につきましては本年度の四役以上の役員の方の意識・モチベーションなどを参考に意見を取り纏め、次年度にしっかりリレーションをしているところで御座います。全ての活動が皆様のご協力あってのものでした、この場を借りて厚く御礼いたしたいと思います。本当にありがとうございました。

### 郷土愛育成委員会

本年、当委員会では知る事をキーワードに活動して参りました。5月担当例会においては苦小牧をより知るために人口が同じ17万人台である鎌倉市と幾つかの観点から比較し、全国的に認知度の高い鎌倉市に苦小牧は負けていないことをお伝えしました。また、10月担当例会におきましては、(株)北海道日本ハムファイターズの山口伸吾様を講師にお迎えして、いかにして短期間に多くのファンを獲得してきたのかについてご講演頂きました。当委員会の考える郷土愛とは、この苦小牧に暮らせていることに感謝と誇りを持ち、他の人のために自ら行動を起こすことです。その実践の為に、感謝と誇りに裏付けされた行動が必要と考えます。当委員会メンバーは今後もその心を持って先頭に立って活動して参ります。1年間、多くの方に支えて頂いて活動して頂くことができました。心から感謝申し上げます。本当に有難うございました。

### 総務広報渉外委員会

積極的な総務を目指し1年間、総務・広報・渉外の3本軸で活動して参りました。進取果敢に行動する委員会メンバーの姿が全LOMメンバーに波及し、一年間充実した青年会議所活動を進める事が出来たと感じております。最後に、はすかっぱを3号まで季刊発行出来ました事に、協力頂きました方々にお礼を申し上げます。一年間誠にありがとうございました。